

急性期クリティカルパス (イメージ)

	1 週目	2～4 週目	5～8 週目	9～12 週目
本人の目安	病棟環境に慣れる。 治療の必要性について理解する事ができる。 スタッフに援助を求められる事が出来る。負担の軽いプログラムには参加できる。		スタッフに自分のことが話せる 自分にあっただ活動に参加できる	これからの治療について考えることができる
評価・治療検討	初期評価及び評価検査の指示 薬物療法の実施及び副作用チエック 対象者及び家族面接病棟ガイドダンスと治療指導等説明、診察は1日1回 血液検査・X-P・CT等	初期基本計画の策定 薬物療法の評価及び実施 治療関係構築のための支持的療法 問題予測・簡単な治療方針の検討 血液検査1/月 ECG1/3月 薬物血中濃度1/月 心理面接 (人格形成等聴取)	情報の補足による再評価及び治療目標の再設定 病棟の獲得の為の心理教育 薬物療法の効果評価 血液検査1/月 薬物血中濃度1/月 問題行動の背景分析 神経心理学的検査	急性期治療の評価、行動の評価、治療反応性評価、外出の可能性の評価を行い回復期移行への検討 支持的療法・心理教育の継続 血液検査1/月 薬物血中濃度1/月 病棟尺度を用いた評価
心理検査	心理面接 (生青歴等聴取)			
多職種チーム	対象者および家族から情報収集、信頼関係の構築	治療プログラムへの導入、対象者ごとに当初情報を元に個別プログラムを検討・立案及び実施 急性期ミーティングの実施	プログラム参加状況を評価、再計画	治療プログラムの実施及び評価 回復期への移行について検討
看護活動 (体力の回復と患者看護者関係構築)	情報収集 (患者観察シート) 綿密な入院時オリエンテーション、身体的健康状態の管理、精神症状及び行動の観察、初期看護計画の作成、不穏時の早期介入 服薬の管理と薬効・副作用の観察 入浴・排泄介助	身体的健康状態の把握 身体管理能力と生活能力の把握と評価 治療プログラムへの導入と観察・評価 個別的なかわりによる援助関係の構築 看護面接及び看護計画の見直し 服薬の管理と薬効・副作用の観察 入浴・排泄介助	治療プログラム参加への支援とプログラム終了後の個別フォロー 個別的なかわりによる援助関係の展開 看護面接面接を通じた心理的支援と問題整理、看護計画の見直し 服薬の管理と薬効・副作用の観察	回復期への移行可能性についての評価 個別的なかわりによる援助関係の構築 看護面接面接を通じた心理的支援と問題整理、看護計画の見直し 服薬の管理と薬効・副作用の観察
作業療法	作業オリエンテーション (情報収集) 治療関係の構築	急性期作業療法 (休息を促す活動)	衝動性を緩和する活動 身体感覚の回復を促す活動	体力を回復する活動 現実感の回復を促す活動
精神療法		支持的精神療法	全てのケアやスタッフへの敬意が疎弱 治療へのエンブレミアイアンスが高まる	自分の過去・現在について言葉にし始める (自己開示)
心理教育		疾病別治療プログラムの導入	人との出会いに伴う行動様式を獲得する 治療プログラムを適応する	原疾患に対する対処ができれば始める
レクリエーション		毎週実施 (週2回定例)	→	→
全体ミーティング		毎週実施 (週1回定例)	→	→
ソーシャルワーク業務	対象者、家族の情報収集、信頼関係の構築、家族・関係者の調整と心理的サポート、 社会復帰調整官との情報交換 生活保護等入院初期に必要な外部機関との調整・手続き	対象者、家族の情報収集、信頼関係の構築、家族・関係者の調整と心理サポート、 権利保護・処遇等の相談 社会復帰調整官との調整・協議 社会生活の中期に伴う諸手続き	対象者、家族の情報整理し福祉職としての意見を伝える、家族・関係者の調整と心理サポート、 社会復帰調整官との調整・協議	対象者、家族の情報整理し福祉職としての意見を伝える、家族・関係者の調整と心理サポート、 対象者の退院後の希望や居住地等についてニーズ調整し社会復帰調整官と協議 権利保護・法規講座
家族調整	家族面接 (合同面接)	家族心理教育; 事件や疾患に関する戸惑いを整理する (個別・集団) 過剰な感情反応を整理し受け入れ可能な関係を回復 問題行動の背景要因に関する情報が深まる	権利保護・法規講座	